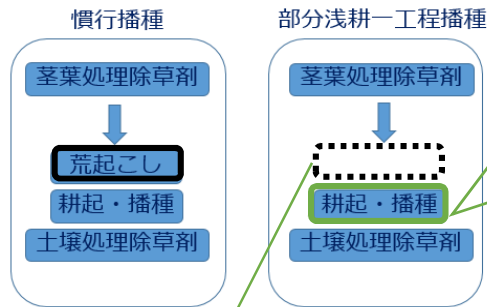


大豆の部分浅耕—工程は種技術について

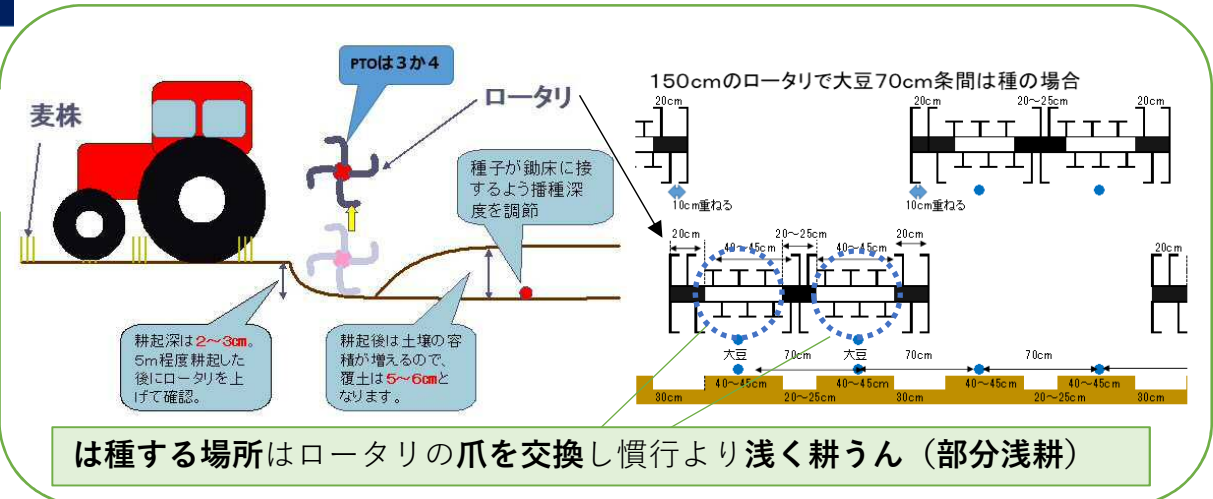
は

部分浅耕—工程播種の作業工程



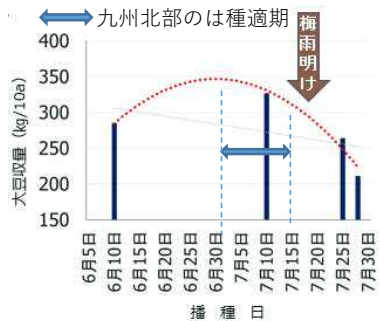
部分浅耕—工程は種の作業工程では種前の「荒起こし*」を行わない

* 前作の作物残渣や雑草の埋没、整地を目的としては種前に行う耕起作業

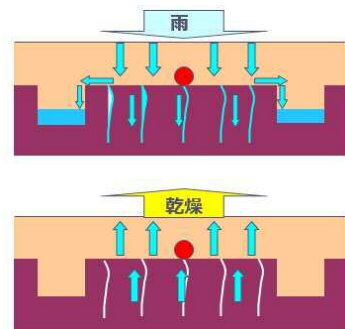


【部分浅耕—工程は種技術の特長】

◎梅雨で土壌が湿った状態でも適期では種が可能



◎は種後に降雨、乾燥どちらが起きても出芽は安定



◎初期生育が良いため最下着莢高が高くなる。結果コンバイン収穫時の収穫ロスが削減



◎浅耕により下層の雑草種子の発芽を抑制するため雑草が減り、除草剤使用量を削減

◎は種作業の燃料消費量を2/3に削減 (△13ℓ/ha)

➢九州の大豆作付面積(令和3年21千ha)で換算すると約7百t/年のCO2削減に相当(環境省HP記載の排出係数より算出)

◎は種作業の時間をほぼ半減 (△2.6時間/ha)

知識や技術力が必要ですが、使いこなせば大きな効果が得られる技術です！

※本資料は福岡県作成「部分浅耕—工程播種マニュアル」の一部を引用して作成